

平成二十八年 第十期くまもと俳句ポスト

第十期開函

日本伝統俳句協会評議員 井芹 眞一郎 選

特選

漱石の一言一句竜の玉

熊本県熊本市

加藤いろは

【講評】

一八九六年（明治二九）第五高等学校に英語教師として赴任した夏目漱石は四年余りを熊本で過ごします。その間全俳句の半分ちかくを作りますが、むしろ文学作品に力を発揮します。掲句、作者が熊本の漱石の足跡に触れながら、漱石が小説の中に込めた言葉や思いを竜の玉と重ねてうまく共鳴しあって見事です。

わが輩通り賞

まだ癒えぬ地震ないの火の国冬支度

茨城県取手市

宮河志津子

入選

湧水のゆたかな江津や浮寝鳥
五輪の書成りし岩戸の冬紅葉
爽やかな風ほしいまま大観峰

熊本県熊本市
熊本県熊本市
大分県大分市

野崎一雄
山崎綾子
植山紀子

佳作

秋深し読経ながるる本妙寺
秋空や何処に飛びし城の鯨
紅葉づれる漱石旧居音もなく
冬すみれ見つけ漱石思ひけり
漱石をたどるくまもとあたたかい
山茶花や徳富旧居に年重ね
史跡訪ふ秋雨けふる田原坂
夏空に高くそびえし天守閣
石鳥居なき参道に秋の風
風鈴の軽やかに舞う旧居かな

熊本県熊本市
熊本県熊本市
熊本県熊本市
熊本県熊本市
沖縄県南風原町
熊本県菊陽町
福岡県中間市
福岡県福岡市
熊本県熊本市
茨城県つくばみらい市

菊池一郎
木村初子
中野しずこ
松本よし枝
赤嶺瑞恵
末次直人
宮崎サカエ
栗下純也
鶴田信吾
北野和良

投句総数

一三九句

市外

六一句

市内

七八句

開函日 平成二十八年十二月三十一日